

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	シエルプラス		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 3日		～ 2026年 2月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 3日		～ 2026年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所内の職員全員が、経験豊富であり資格も持っていることで、専門的な支援を行うことが出来ています。さらに、外部からセラピストを招き専門的な支援をしています。	一人ひとりの特性や発達に合った専門的な支援を計画・実施しています。日々、子どもたちの様子を職員間で情報共有を行いより良い支援につなげています。	職員の専門性の向上・スキルアップの為、外部研修はもちろんの事、社内研修にもさらに力を入れ行っています。チームで支援できるように、情報の共有を大切にしています。
2	子どもたちが安心して、楽しく通所できるように活動等のスペースを確保しています。また、室内はバリアフリーになっており、車いすが必要な方や、全介助が必要な方も利用しやすい環境になっています。	活動の部屋は、外から視線が遮ることが出来るすりガラス加工をしており、家具等の配置も子供たちの安全に配慮しています。衣服の取り換え・排泄等の介助の際も、カーテンで視線を遮ることが出来、プライバシーを守ることが出来ています。	棚の角に安全ガードを貼ったり、日ごろからおもちゃ等の片づけ・消毒も徹底しています。また、ニーズに合った介助が提供できるように関係機関との連携を深めています。
3	保護者との連携や情報共有、コミュニケーションが充実しています。	支援計画更新の時以外にも、送迎の際や連絡帳にて、その日の事業所での様子を伝えたり、お家での様子・保護者の不安や悩みなどを聞くことにより、子どもの支援だけでなく、保護者の気持ちに寄り添った支援をしています。	個別支援計画を立案する際にも、一人ひとりの成長や特性・ニーズに合った支援が出来る様、工夫していきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会が少ないです。	昨年は『よねたや祭り』と称して、法人で合同の秋祭りを開催しました。しかし、働いている方も多いことから、頻繁な交流の場の設定が難しいです。	今後も、イベント等での交流の場の設定を設けていきますが、他に交流ができるような機会を検討していきます。
2	家族に対する家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族も参加できる研修会等の機会について。	発達も、特性も様々である為、一律的なペアレント・トレーニングを実施することが難しいです。	今後、検討を重ねる必要に応じて、面談の場を設けたり、個々の課題に合わせた情報提供やアドバイス等を行っていきたく考えています。
3			